



おかあさん、私、
ずっと手をつないでほしかった。

松岡錠司監督作品

アカシアの道

a Matsuoka George Film *Acacia Walk*

夏川結衣 渡辺美佐子 杉本哲太 高岡蒼佑 天光真弓 りりィ 小沢象 有福正志 小林麻子 土屋久美子 藤田弓子

プロデューサー: 堀越謙三/松田広子 協力プロデューサー: 田上節朗/もとひろ 原作: 近藤ようこ(双葉社刊「アカシアの道」より) 撮影・照明: 笠松則通 録音: 橋本文雄 美術: 磯見俊裕 衣裳: 宮本まさ江 ヘアメイク: 豊川京子
音楽: 茂野雅道 編集: 菅嶋信一 助監督: 板底竜彦 ライン・プロデューサー: 西村和明 監督・脚本: 松岡錠司 製作: ユーロスベース/TBS/PUG POINT 配給: ユーロスベース 2000年/カラー/35ミリ/90分/ワイドサイズ





アカシアの道

監督・脚本：松岡錠司 出演：夏川結衣 渡辺美佐子 杉本哲太 高岡蒼佑 天光眞弓 りりィ 小沢泉 有福正志 小林麻子 土屋久美子 藤田弓子
製作：ユーロスペース/TBS/PUG POINT 配給：ユーロスペース 2000年/35ミリ/カラー/ワイドスクリーン/90分 <http://www.tbs.co.jp/cinema/acacia/>
a Matsuoka George Film Acacia Walk



「アカシアの道」は、母親から大きな心の傷を受けたひとりの女性が「介護」を迫られ再び母親に向かい合うことで、自分自身に対して、母親に対して、そして「母と娘」の関係について新しい視点を獲得しようとする物語。監督、松岡錠司にとって三年ぶりの新作。デビュー作「バタアシ金魚」以来一貫して、人と人がお互いのエゴや弱さを抱えながらも関係をとりむすんでいくこうとする姿を描いてきた松岡監督が長年、映像化を考えていた企画です。原作は、リアルな人間描写で定評のある近藤ようこの「アカシアの道」。人間形成の根幹でもある「母と子」の関係を描いたこの作品は九十五年に漫画雑誌に連載されて反響をよび、二〇〇〇年に待望の再版が発売されました。

編集者として働く木島美和子は三〇才。幼いころ、美和子にはつらく当たり続けた母・かな子がアルツハイマーを患っていると知り、しかたなく再び実家に戻ることになる。「介護」の負担は増していき、仕事もままならなくなり、美和子のいらだちはつのるばかり。つい、母を怒鳴りつける自分に、かつて自分を罵倒した母の姿が重なり、心は痛む。そのストレスから逃れるように、それまでは距離を保っていた恋人、沢木との関係を深めていくけれど、彼女の孤独感がかえって深まる。追い詰められ「もう、終わりにしようか」と美和子が母に手かけた時……。

「現在」と向き合っている非常に真摯な作品だと思えました。夏川さん、渡辺さんの演技も素晴らしい。ラストシーンのみずみずしさが最も印象に残りました。

母も私もお互い歳をとってきたので他人事ではありません。でも、この映画は哀しい感じはしませんでした。幼い頃、母とどう接していたか少し思い出しました。——(三十四歳/会社員/女性)

自分自身の十年後の姿として身の上される思いで観させていただきました。娘側の立場になって客観的に観ることが出来たのは、今後の私自身にとって有益でした。

東京国際映画祭/上映後のアンケートより
(五十三歳/主婦/女性)

5月26日(土)より感動のロードショー(6月8日(金)まで)

上映時間：連日①12:00 ②2:00 ③4:00 ④6:00【各回入替制】

前売券¥1500は劇場窓口、チケットぴあ、ローソンほか、市内プレイガイドでお求め下さい。劇場窓口でお求めの方には先着でポストカードプレゼントがあります(数に限りがあります)。

パラダイスシネマ

心斎橋アメリカ村BIG STEP 4F

06(6282)1460

日航ホテル	●	●	●	●
心斎橋駅の出口(OPA)	●	●	●	●
BIG STEP 4F	●	●	●	●
おみやげラッキー	●	●	●	●
東京三軒	●	●	●	●
三軒	●	●	●	●
三軒BK	●	●	●	●
三軒	●	●	●	●
三軒	●	●	●	●